

「学習の友」学習会

静岡県労働者学習協会静岡支部

ニュース

2026.4.11 No.163

組合員の声（困難）から始める 組合活動のスタイルへ転換して

学ぶ・ことは・生きる・力

学習の友 4 2026 No.872

特集1 いかに新しい仲間を増やすか

〈職業社会〉と労働組合
青年教育を支え、ともに進む組合活動
東京工科大学副学長 藤野信也
「仲間を増やしたくなる労働組合」をめざして
大阪府職員 小松康則
労働組合とアンジェーション
長野信雄

特集2 許すな！労働規制緩和

成長のスイッチか、衰退のスイッチか
全国一斉定時アクション
全教 金井裕子・家敏雄 岡山光恵

静かな「クーデター」で乗っ取られた日本一総選挙の結果と政治の課題
五十嵐 仁
組合員研究事後を生かす
関 礼子



今回は4月号の学習です。

特集1の記事『仲間を増やしたくなる労働組合』をめざして一組合員が主体性を発揮する組合運営（小松康則大阪府関係職員労働組合〔大阪府職労〕執行委員長）と、「静かな『クーデター』で乗っ取られた日本一総選挙の結果と政治の課題」（五十嵐仁労働者教育協会会長）を読み合わせ討論をしました。

小松氏の記事は、これまでの組合の運営の体験から「もっとみんなが主体的に参加したいと感じる組合活動へと変えていくことはできないか？」との「問いかけからチャレンジははじまりました。」と云います。そしてコミュニティ・オーガナイズングを取り入れるなど役員主導の活動をどう変えていくかについて悩み、話しあったりして「活動の進め方をすっかり

変」えたと述べています。

そのときに大切にしたのは、限られた時間と労力を「組合員の声（困難）から始める」ことを徹底したことと云います。具体的には、会議の時間帯を「子育て世代の役員の意見をふまえて、土曜日午前中の完全オンライン開催へと変更しました。問題提起・行動提起型の進行をあらため『全員が話す』『少人数での話し



次回学習会は次のとおりです。26年5月号を持って
お気軽にご参加ください。

日時 “26年5月13日（水）18：30～

場所 国労小会議室

今回は第二水曜日となります。お間違いなく。



革新陣営の抜本的ネット攻略の見直しを！

あい』を基本とした参加型へと変えました。この変更によって女性役員が半数以上に増え、20～30歳代の役員も増えました。参加者からは『気軽に参加できる』『いろいろ話せて楽しい』という声が寄せられ、初参加の役員は『こんなに楽しい会議だと思ってなかった』『組合活動のハードルが一気に下がった』と話しています。」こうした変化の中で、新しい取り組みが始まっています。毎月1週間通し開催の「昼休みミーティング」（オンラインで本庁以外からも参加できる）は、都合の良い日に参加できる職員の要望・要求を聴く場となり、トイレの改善・増設、冷暖房時間の大幅延長など問題解決が図られました。「こうした取り組みを通じて『労働組合をより身近に感じる』『声をあげてみようと感じ



る』という思いが少しずつ広がって」と感想を述べ、感じた事例を列挙します。最後に、かつての労組が「何かをやらせる場所」で、自分は「やらせる人」だったが、この間のチャレンジを経て、「やりたいことをやれる場所」と変わりつつある。そしてそれが「組合員を増やすための大きな力になると確信しています。」と結んでいます。

五十嵐氏の記事は、先の総選挙の結果を分析し、我々の今後の政治課題の提起をしています。

討論では次のような意見がありました。

小松氏の記事について。「大阪府職労の定期大会の写真が以前『学習の友』に載っていたと思ったが、小グループでミーティングみたいなことをやる。あれは凄いなと思った。」「昼休みミーティングを毎月1週間ぶっ通しでやるとあるが、どんなふうにするのかね。」「都合が良く来た人だけでやるんだろうけど。」「府職労だから人数はいるでしょう。」「大阪府は自治労もあるだろうね。」など。

五十嵐氏の記事について。「個人による動画発信が圧倒的に、保守・新興政党などの支持者から多くされている。それが革新勢力側は弱いようだ。政党本部などからの発信は、質は良いが見る方からすると『自分たちの宣伝だな』となる。第三者が発信やれば、『知らない人が良いと言っている』と、それなりに耳を傾けるということだ。」「多くの党は、SNSの商売人に金を出して頼んでいる。」「ある程度革新政党もプロに作ってもらうのも必要だと思うよ。」「金がないわけではないだろうからね。」「(政党だけでなく)革新的な企業や団体も、SNSに強い人を育ててそうした人が投稿していくようにしたいね。」「それだけでは足りない。政党の高齢化で、ネットで『いいね』を押すのが精一杯だ。この水準だと戦争にならないのだ。」「僕らは写真を撮るけど、娘たちは動画を撮る。そこがまず違うところだ。」「それをLINEで送るのもできないとなる。」「共産党・れいわ等は、他党の悪口ばかりが載るので、動画を見ている人の支持率が低い傾向が出てくる。高市なんかは良いことしか言わないので高い。数も内容も負けているということだ。」「『いいね』を付けるだけでなく、高評価を一言添えるとネット拡散される可能性が高くなる。」「憲法改正の投票になったら今の水準では押し切られる。」など、ネット戦略についての話題が大変盛り上がりました。

